

科目区分	基礎科目		
授業科目名	基礎医学英語		
担当者名	責任者	学務委員長	分担者 ———
単位数	1単位(選択)		配当年次 1年次
授業形態	講義		実施場所 Zoom
開講期間	科目履修登録終了後に受講者へメールで連絡します		
開講曜日・時間	科目履修登録終了後に受講者へメールで連絡します		
授業の概要・到達目標			
<p>指導教員が主催する研究室において、提示されたテーマに関する英語論文について和訳・要点をまとめ発表を行うことにより、英語の読解力を向上、原著論文の理解能力、当該研究分野の現状把握、研究成果の考察といった能力の養成を目的とする。</p> <p>講義の進め方 ①指導教員からテーマの提示。②テーマに沿った英語論文を探し、和訳し、要点をまとめ発表資料を作成。③発表資料を元にZoomで発表。指導教員からまとめ方等について指導</p>			
授業計画			
	授業の概要及び到達目標 (各講座の研究テーマ例)	担当教員名	講座名 〔実施場所〕
	神経・精神疾患の病態解明に関する研究	板東 良雄 教授	機能形態学
	脂質性二次伝達物質代謝酵素の組織発現および細胞内局在解析	八月朔日 泰和 教授	組織細胞学
	神経シナプス生理や、シナプスと神経疾患との関連について興味のある英語論文を読み、その内容をまとめ発表する。	三木 崇史 教授	細胞生理学
	循環器病理学、呼吸器病理学に関する英語論文を読解し、その内容のまとめにつきプレゼンテーション発表をおこなう。	後藤 明輝 教授	定量病理学
	糖尿病やガンの発症機序に関する英語論文を読解し、その内容をプレゼンテーション形式で説明、考察する。 (代謝組織および腫瘍のエピジェネティクス解析、シングルセル解析)	松村 欣宏 教授	分子機能学・代謝機能学
	生理活性脂質の機能に関して、生化学的解析を行った論文または生理学的役割とそのメカニズムを明らかにした論文などを中心に読み解く。	石井 聡 教授	生体防御学
	研究論文(英語)の批判的読解:糖尿病および内分泌研究の事例	脇 裕典 教授	代謝・内分泌内科学
	アレルギー・炎症性疾患の病態に関する論文の要約	植木 重治 教授	総合診療・検査診断学
	麻酔深度の概念を再考する (Exaggerated Anesthetic Requirements in the Preferentially Anesthetized Brain. Anesthesiology 1993; 79: 1244-9)	新山 幸俊 教授	麻酔・蘇生・疼痛管理学
	乳癌の腋窩リンパ節転移の診断における問題点	森 菜緒子 教授	放射線医学
	網膜疾患における新しい画像解析について知識を深める	岩瀬 剛 教授	眼科学
	精神疾患の病態、診断、治療に関する最新英語論文を読解し、当該研究分野の現状を把握し、研究成果の批判的考察を行うことができる。	三島 和夫 教授	精神科学
	自然リンパ球等の免疫細胞に関する最新の知見を発表	海老原 敬 教授	微生物学

授業の概要及び到達目標 (各講座の研究テーマ例)	担当教員名	講座名 〔実施場所〕
院外心停止に対する心肺蘇生法について、標準的な蘇生法でよいのか、対外生命維持装置を駆使した体外心肺蘇生法がよいのか、それ以外にも新しい方法は出てきたのか、最新の英語論文を検索し、当該研究から現状を把握し、研究成果を考察するなどの能力の養成を行う。	中永 士師明 教授	救急・集中治療医学
がん間質細胞の腫瘍生物学における最近の知見	田中 正光 教授	分子生化学
細胞形態変化による細胞機能の制御とその分子機構	大森 泰文 教授	病理病態学
消化器がんの世界的な動向	飯島 克則 教授	消化器内科学・神経内科学
造血器腫瘍の基礎研究、診断治療に関する最新の原著論文を題材とし、発表に対してディスカッションを行い研究の進め方を学ぶ。	高橋 直人 教授	血液・腎臓・膠原病内科学
消化器癌における手術手技あるいは補助化学療法の効果検討	有田 淳一 教授	消化器外科学
外科学臨床論文を読み、最新の知識と論理的な思考力を身に付ける。また、論文から得た知識を実際の医療現場でどう活用しているかを学ぶ。(肺野末梢小型非小細胞肺癌に対する肺葉切除と縮小切除のランダム化比較試験)	今井 一博 教授	胸部外科学
泌尿器科学、とくに泌尿器腫瘍学、腎移植、男性不妊、泌尿器科的分子生物学、ロボット支援手術、や最新泌尿器科学に関する最新の代表論文について理解し、議論、問題点などを抽出することができることを目標とする。	成田 伸太郎 准教授	腎泌尿器科学
以下の論文を読んで、がん生物学の根底にあるメカニズムを解き明かすための方法論を考えてみましょう。 Rapid colorectal adenoma formation initiated by conditional targeting of the Apc gene H Shibata, et al. Science 278 (5335), 120-123	柴田 浩行 教授	臨床腫瘍学
イオンチャネルと疾患をキーワードに自ら興味のある研究テーマを検索し、内容を理解したうえでプレゼンテーション形式で発表を行う。	沼田 朋大 教授	器官・統合生理学
外科手術と医療安全～テクニカルスキルとノンテクニカルスキル～	中嶋 博之 教授	心臓血管外科学
副甲状腺ホルモンが卵巣摘出ラットの骨形成に与える影響	宮腰 尚久 教授	整形外科学
本講では遺伝性皮膚疾患、とくに遺伝性色素異常症や遺伝性角化症、アトピー性皮膚炎の遺伝学の中から、事前に講師と相談してテーマを決めて学ぶ。	河野 通浩 教授	皮膚科学・形成外科学
耳鼻咽喉科、頭頸部外科、気管食道科、上気道科、アレルギー、免疫、感覚器、癌の臨床と基礎の研究成果	山田 武千代 教授	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
脳血管性障害、脳腫瘍、脊椎脊髄疾患、頭部外傷、先天性奇形など脳神経系全般の外科的疾患の診断、治療のなかから、テーマを設定して学習する。	高橋 佑介 講師	脳神経外科学
Circulation、European Heart Journal、JACC などの循環器領域の主要学術誌に掲載された論文を教材として使用する。論文発表およびレポートを評価対象とする。	渡邊 博之 教授	循環器内科学
呼吸器領域の最新の論文について読解し、その重要性、問題点、将来応用に関して要点を抽出し議論する。テーマ例：COPDにおける細胞老化、喘息の最新治療、肺がんの免疫療法、呼吸器感染症の先進の診断と治療、間質性肺炎の分子メカニズムなど。	中山 勝敏 教授	呼吸器内科学
細胞内膜輸送に関する論文の抄読	齋藤 康太 教授	薬理学

授業の概要及び到達目標 (各講座の研究テーマ例)	担当教員名	講座名 〔実施場所〕
小児の発達や疾患病態の研究を通じて論文読解・論文作成・発表等能力を得る。(例:発達障害、先天代謝異常症、遺伝性疾患など)	新井 浩和 教授	小児科学
受験生時代より私は英語の辞書を引くのが大嫌いでした。しかし、英文の報告は全世界の方々と共有できる力があります。さりどて、細かいアルファベットが並んでいる論文を隅から隅まで読むのは苦痛ですね。討論の部分などその論文の本質に関係ないこともたくさん記載されていることがあります。私はタイトル、アブストラクトそして図と」その解説を眺めたうえでその論文を読むことにしています。そのあたりの自分なりの方法を伝えます。	寺田 幸弘 教授	産婦人科学
小児外科に関する英語論文について和訳・要点をまとめ発表を行うことにより、英語の読解力を向上、原著論文の理解能力、当該研究分野の現状把握、研究成果の考察といった能力の養成を目的とする。	森井 真也子 助教	小児外科学
法医病理学	早川 輝 教授	法医科学
公衆衛生の課題	野村 恭子 教授	衛生学・公衆衛生学
『日本の将来を見据えた、これからの卒前教育および生涯教育の理想的な方向性』 本コースでは、日本の将来を見据えた、これからの卒前教育および生涯教育の理想的な方向性に関連する論文を解析・検討します。	長谷川 仁志 教授	医学教育学
薬理遺伝学について理解を深める	三浦 昌朋 教授	薬物動態学
医療におけるリアルワールドデータの利活用	大坪 徹也 教授	医療情報学
成績評価の基準と方法		
教室か研究室での実習＋自習，計30時間で1単位とし，評価は出席，レポートと発表によっておこなう。		
問い合わせ先(氏名，メールアドレス等) 学務委員長, gakumu-in@jimu.akita-u.ac.jp		
その他特記事項 履修に関する情報:勤務等で実習に出席できない場合には日程の調整に応じます。 教科書・参考文献:必要に応じて資料を配付する。または，文献を指定する。 自学自習時間における学習内容:到達目標や授業内容に応じた準備学習を行うことが望ましい。		